

2016 年 3 月期第 1 四半期 決算電話会議 質疑応答要旨

日時：2015 年 8 月 3 日（月） 11：00～11：35

お断り：この要旨は、決算電話会議にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、電話会議でお話ししたことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

Q. 水処理薬品の Kurita Europe APW GmbH (KEAG) を除くベースでの売上高、営業利益それぞれの伸び率を教えてください。

A. 売上高は前年同期比で 5%強伸びている。営業利益は増収効果により前年同期比で 10%程度（2 億円）伸びた。

Q. 水処理薬品の KEAG を除くベースでの国内受注、海外受注それぞれの伸び率を教えてください。

A. 国内受注は 1.2%の伸び。海外受注は KEAG を除いて 18.5%の伸び。受注合計では KEAG を除いて 5.6%の伸びだった。

Q. KEAG の第 1 四半期の営業利益率はどれくらいか。

A. のれん・技術関連資産等償却前で約 5%。

Q. 水処理薬品の国内需要の回復は今後も継続するか。

A. 以前から比べると改善しており、それが継続すると考えている。

Q. 水処理薬品事業の KEAG を除くベースでの収益性について教えてください。

A. 水処理薬品事業の KEAG を除くベースでの営業利益率は前年同期の 12.5%から今第 1 四半期は 13.0%に改善している。

Q. 第 1 四半期に水処理装置で受注済み案件のキャンセルはあったか。

A. 電子向け、一般向けともにキャンセルはなかった。

Q. 第 1 四半期に水処理装置で不採算案件は発生したか。

A. 発生していない（前期も第 1 四半期では発生していなかった）。

Q. 水処理装置の不採算案件は今後も発生しないと考えていいか。

A. まだ発生はしていないものの、少し不安な案件がある。よって不採算案件が一掃されるまでには至らないが前期に比べるとかなり減っていると認識している。

Q. 水処理装置の営業利益の増減要因について教えてください。

A. 水処理装置の営業利益は前年同期に比べ 5 億円増加しているが、その要因として原価率の改善で+9 億円、減収影響で▲2 億円、販管費増加で▲2 億円があった。

Q. 日本国内での液晶の設備投資や生産数量は低調だと聞くと、超純水供給事業の売り上げの見通しに変更はないか。

A. 超純水供給事業はいまのところ計画通り進捗しており、大きなリスクはない。

Q. 超純水供給事業の顧客数に変化はないか。

A. 変わっていない。

Q. 超純水供給事業の投資計画に変更はあるか。

A. 超純水供給事業の設備投資計画には現時点で見えているものだけを織り込んでいるが、追加投資は少し出てくるのではないかと見ている。

Q. 土壌浄化の受注の金額ベースでの増加額を教えてください。

A. 前年同期に比べ7億円増加した。

Q. 土壌浄化の受注が増加している背景は何か。今後拡大が見込めるか。

A. 土地取引や浄化対策がようやく少し動き出した。拡大するとまでは申し上げにくいですが、計画は確実に達成していきたい。

Q. 第1四半期の業績の計画に対する進捗を教えてください。

A. 売上高の進捗は計画に対して若干遅れ気味だが、営業利益に関しては計画を上回る進捗となっている。とくに電子産業向けの装置で収益性が改善されてきた。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。